

アイテム

アートな伊丹を「観る・行く・体験」

アイテム

2013.7.9
夏号
公益財団法人 伊丹市文化振興財団
TAKE FREE

伊丹には
昆陽池公園という
避暑地があるじゃないか。

本で解決!
お悩み
相談室

夫が家事をしてくれません。
手伝ってほしいな〜。

(全国の主婦代表 Oさん)

明るく楽しいお悩み募集 図書館南分館まで!



みなみさんの
オススメ本



本のことなら
おまかせ!
みなみさん

「その日のまえに」
重松清・著
(文藝春秋)

家事は女性がするものと思ってる男性、多いですね。この本を読むと「家族一緒に元気に暮らせるって何てステキ!」って気持ちになるはず。家事はしてくれなくても一緒にいらられるだけで幸せ!って思えてきませんか? ...まあ、だんなさんもそう思って奥さんをもっと大切にしてくれるといいんですけどね〜。

主婦の切実な悩みがきました! アタシのパパはそこそこ家事を手伝ってるわ! というわけで、ママの本棚を捜索。こんな本があったのでパラパラ見てみると「操縦」とか「しつけ」とか気になるワードが! どうやら、ちょっとした心理テクが必要みたい。あなたのうちのテーブル今どんな感じ?

かんこちゃんの
オススメ本



「たったひとつのテーブルで夫婦仲が10倍うまくいく」
あらかわ菜美・著
(コスモトゥーワン)



ぶんたくんの
お姉さんの
かんこちゃん

ラスタホール1Fの図書館
伊丹市立図書館 南分館

南野2-3-25 ☎072-781-7333

アイテム
2013年7月1日発行(季刊夏号・通巻76号)
発行:公益財団法人伊丹市文化振興財団
編集・デザイン/平井和哉(0.1knot)
〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-1-3
いたみホール(伊丹市立文化会館)内
tel.072-778-8788 fax.072-778-8585
http://hccweb1.bai.ne.jp/itamihall/zaidan/
e-mail itami-kikaku@ccb.bai.ne.jp



特集
自然観察講座で
潜入しちゃいました。
こりゃ楽しい!

美術館/加藤久仁生「つみきのいえ」
(7/13~9/1) 5組10名様 ※締切/7月31日
プレゼントをご希望の方は、ハガキまたはメールで
郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、アイテムの感想をご記入の上、
上記、文化振興財団宛「アイテムプレゼント係」まで。
! 当選の発表はチケットの発送をもってかえさせていただきます。

みやのまえ
文化の郷
美術館
工芸センター
伊丹郷町館
稀衛文庫



ラスト自然クラブとは

平成13年10月、ラスト自然文化塾（ラスト自然観察講座の前身）の修了生によって結成されたボランティア団体。結成後、ラストホールを拠点に身近な自然から学んだ知識を地域に還元、アウトプットする活動を続けている。入会はラスト自然観察講座を修了した人のみ可能。会員数107名（H25.6.20現在）

ラスト自然クラブ、ラストホールでの主な活動内容

- ラスト自然観察講座（4～6月）
- ラスト自然工作教室（8月下旬）
- ラストこども広場（11月上旬）
- 伊丹緑地の樹木観察会（4月下旬・11月下旬）

自然観察って
ただぼんやり歩くだけ
じゃないのね

正直に言います。ホンマに悔ってました。

散歩好きの人が集まって、自然の中をのんびりと歩く、と。そんなイメージ。まあでも、皆さんの楽しそうな様子が撮影できたらそれでいいのかなと。

ところが。いざ講座生と講師役のラスト自然クラブのスタッフと一緒に歩いてみると、本気度がハンパでないというか、知識レベルが凄すぎる！ 専門用語も多過ぎて、頭の中が大混乱！ ということで、今回はただの感想文です。すみません（笑）。

ラストホール
の講座

特集

自然観察講座に 潜入しちゃいました こりゃ楽しい！

取材・文／平井和哉 (0.1knot)

2013年度 ラスタ自然観察講座 第5回目
「昆陽池公園の自然観察 & 伊丹市昆虫館の見学」
2013年6月3日(月)
参加人数／23人



観察する植物は高枝切りバサミで！



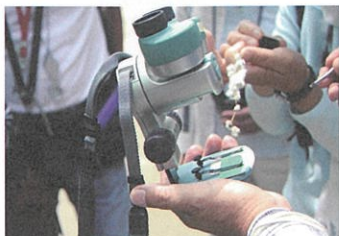
ラスタ自然クラブの代表、高木一宇さん。



双眼鏡で野鳥観察。



植物図鑑で、詳細を確認する人も。



ミニ顕微鏡も登場！ 花粉レベルまで観察。



葉っぱや実などは触ってみて詳細を確認する。



採取した葉などはノートに貼っていく。



葉によっては様々な匂いが。つぶして確認！

のなのだろうか。

しかも、移動中に「気になるもの」を見つけたら、そこで代表者である高木さんからのレクチャーが始まる。けど、時間を気にする人は誰もいない。そこにあるのは「見たい」「知りたい」という知的好奇心だけだ。

それにしても、講座生の熱意たるや、相当なものだ。自分の知らない情報が発信されると必死に耳を傾け、メモを取る。また、携行品もすごい。双眼鏡やルーペは必須。図鑑を持ってきている人も！そういう様子を知ることができたのは、本当に良い体験だった。きっと伊丹の文化を潜在的にリードしているのは、ここにいる人生の先輩たちだ。



スタッフはあらかじめ調べた情報を講座生に伝えていく。何だかとても楽しそう！



資料を食い入るように見つめる。真剣そのものだ。

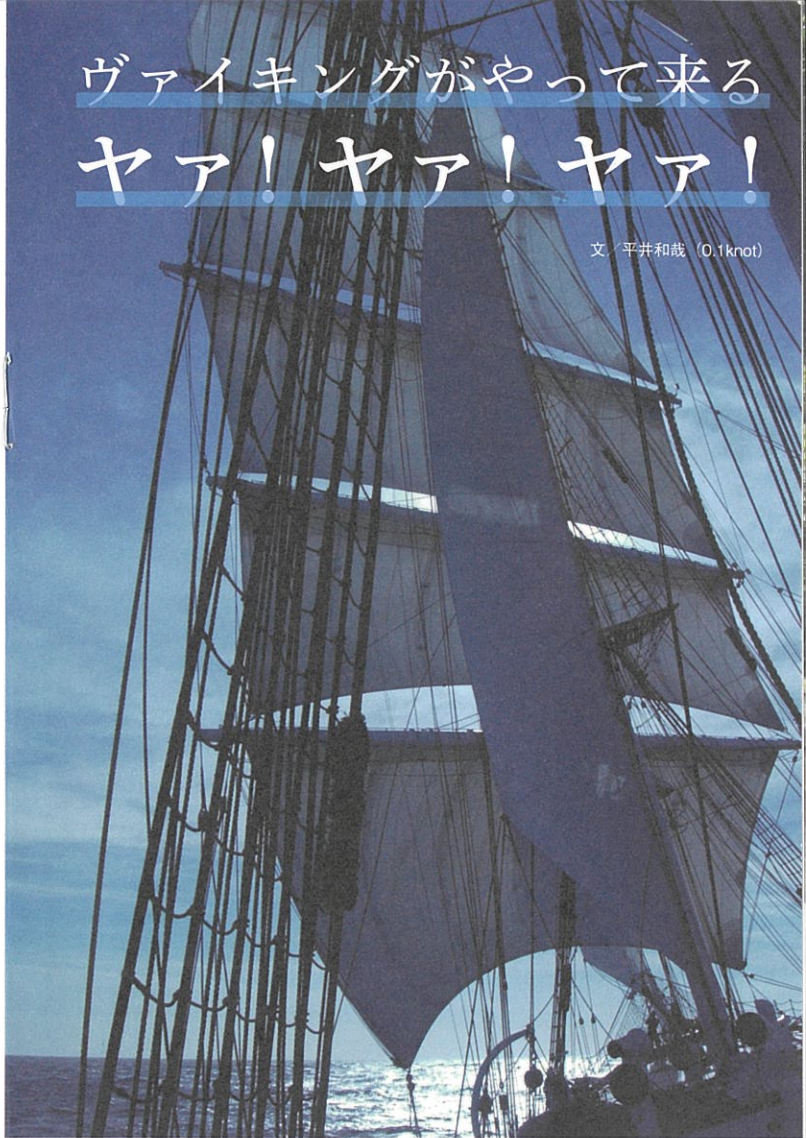
伊丹随一の牛歩戦術。

この自然観察講座の進め方は、あらかじめいくつかの説明樹木を決めておき、指名されたスタッフが説明樹木の下調べをして、当日講座生に説明するというスタイルだ。指名されたスタッフは、それは気が入るだろうから、当然説明の時間が長くなる。力のこもった説明を聞いた講座生は、それぞれに気になるところを矢継ぎ早に質問をしていく。

なんとスタート地点の目の前にあった樹木についての説明がひとしきり終わり、次の説明樹木に移動するまで、20分以上が経過していた。予定としては2時間で昆陽池を一周することになっている。果たしてこのペースで間に合うも

ヴァイキングがやって来る ヤア！ヤア！ヤア！

文 平井和哉 (0.1knot)



ヴァイキングとは、
海賊にあらず。

と、右の見出しに書いたように、ほとんどの人は「ヴァイキングⅡ海賊」というイメージを持っているだろう。けど実は、8世紀の終わりごろから11世紀中ごろにかけて、スカンディナヴィア半島を船で行き来した冒険家・戦士・商人をはじめとした、スカンディナヴィア半島に住んでいた人たちのことを指すのだそう。当時この地域の人たちは手工業に秀でていて、その技術は世界最高レベルであった。そんな技術を使っ、諸外国に届けていた、非常に貢献度の高い民族だったので。

ヴァイキングが愛した 「シャンティ」

時を経て、15世紀ごろからのいわゆる「大航海時代」。帆船の乗組員たちが愛してやまなかったのが「シャンティ」と呼ばれる船の上での歌「舟歌」だ。帆をかけるときには合図・号令のように歌い、あるときは船員たちのやる気を鼓舞させるために歌っていた。当時は「歌のある船は、幸せの船」と言われていたほど、シャンティは重要視されてきた。

そして、現代に甦える。

そんなシャンティを甦らせ、活躍するのが「ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア」だ。リーダーのホーコン・ヴァトレは、元船乗り。ある航海でシャンティの

文化と伝統に触れ、シャンティを広めることを決意したそう。

その「大航海時代」を思い起こさせるような、陽気で力強い歌声は瞬間に世界中の話題となり、世界的帆船フェスでメインアクトを務めるまでになった。

そんな「ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア」の伊丹公演が決定！ しかも8月にはシャンティを歌うワークショップ、9月にはヴァイキングのことが学べる講演が。さらに、コンサート当日の夜には、メンバーと一緒に食事をしたり、目の前で歌声が聴けるという関連イベントも。

「かわいい」だけじゃない北欧文化を、ぜひ！

ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア



世界の伝統音楽・踊り

伊丹アイフォニックホール 宮ノ前1-3-30 ☎072-780-2110

aiphonic 地球音楽プログラム「歌え！ ヴァイキング」

出演/ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア

10月6日(日)。15時開演。

一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増、全席指定)

【関連イベント】

- 文化サロン「大海を征く者たち～ヴァイキングの活動とスカンディナヴィアの原風景」9月23日(月・祝)、14:00～。
- ワークショップ「みんなで歌おう！ シー・シャンティ(舟歌)」8月17日(土)、14:00～15:30。
- 交流会「歌え！ ヴァイキング in 長寿蔵」10月6日(日)、18:00～20:00。



加藤久仁生「つみきのいえ」

画像/絵本「つみきのいえ」原画 2008年 ©ROBOT

是日々芸員学 作品随想

伊丹市立美術館 学芸員/岡本 梓

海水に沈みゆく街。浸水から逃れるため、人々は積み木を重ねるように新しい階層を建てていく。街の住人に、伴侶を亡くし余生を過ごす一人のおじいさんがいた。あるとき愛用のパイプを落としてしまい、水没した古い階層へと潜

る。時間をさかのぼり、昔の記憶がよみがえってくる。子どもが自立して夫婦二人きりで過ごす日々、まだ子どもが小さかった頃の家族の思い出、そして妻と出会うまで建てた最初の家。

加藤久仁生（かとうくにお／1977年〜）が20代から30代をまたぐ約1年間を費やして制作したアニメーション《つみきのいえ》は、2009年に日本人で初めて米国アカデミー賞短編アニメーション賞を受賞し、世界中から共感を集めた。地球温暖化や高齢化社会などの現実を叫ぶのではない。多くを失い孤独に生きることへの悲観でもない。日常を積み重ねていく人生そのものを描いた、温かく美しい物語である。

加藤久仁生展 静かに温かい、ひとかけらの物語。

7月13日(土)~9月1日(日) 10時~18時(入館は17時半)
月曜休(7/15は開館、翌16日は休館)、一般800円、大高450円、中小150円

諷刺とユーモア
伊丹市立美術館



チケットプレゼント!
詳細は最終ページにて

宮ノ前2-5-20 ☎072-772-7447

昆虫と ヒトとの 距離。

昆虫と自然とヒトの エトセトラ

伊丹市昆虫館 学芸員/田中良尚

「昆虫の博物館」というと、ヒトはどんなイメージを抱くでしょうか? 「昆虫の標本を陳列している」や「ケースに入った生きた昆虫を見ることのできる」などを思い浮かべるのかも。もちろんそれらはかなり正しいイメージで、「昆虫の博物館」どれを見ても基本事項でしょう、それら基本事項に共通しているのは、ヒトと昆虫(生体・標本問わず)の間に、ガラスなどのしきりが存在していることです。

さて、伊丹市昆虫館にはそれら基本事項に加えて、あるんです、ヒトと昆虫の間に、しきりのない場所が。それがチョウ温室、常時約1000匹のチョウが舞う空間で、ヒトの目の前をスーッとチョウが飛び抜けていきます。こ

こはチョウが舞い群れる南国を疑似体験できる場所であり、チョウの行動を観察できる場所でもあります(チョウにさわらないでね)。さらにはあるんです、昆虫に実際にふれることができるイベントが! 虫とヒトの夏祭り「いたこんカーニバル2013」では、チョウの幼虫やナナフシなどの昆虫たちを手にのせることができる、「ふれあい屋台」が登場します。ほかにも楽しく、そして勉強にもなる屋台が盛りだくさん!

この夏、伊丹市昆虫館では昆虫とヒトとの距離が、「ものさしで測る長さ」と「親しみ」の両方の意味でより身近になります。昆虫の行動やからだのつくりをしつくり観察すると、夏休みの自由研究のヒントが浮かんでくるかも!



写真右上/チョウ温室内のオオゴマダラ。
左上/昆虫と触れ合える「ふれあい屋台」。スタッフに教えてもらって、いろいろ触ってみよう。
右下・左上/いたこんカーニバル2013では、雑木林をそっくりそのまま表現した「昆虫ジャンボケース」や、難易度を変えて楽しめる「昆虫輪投げ」も登場!

特別展「いたこんカーニバル 2013」

7月17日(水)~9月1日(日) 9時半~16時半(入館は16時)
火曜休(8月は毎日開館)、一般400円、中高200円、3歳~小学生100円

虫たちがもっと身近になる
伊丹市昆虫館

昆陽池3-1 ☎072-785-3582

9/8(日)

灼爛豪華なピアノトリオの世界!

伊丹アイフォニックホール



ヴァイオリン(渡部基一)、チェロ(長明康郎)、ピアノ(田尻洋一)による本格派トリオの特別企画。チャイコフスキーの不朽の名作「偉大な芸術家の思い出」をメインに、贅沢なひとときをお楽しみください。

田尻洋一トーク&ピアノコンサートシリーズ in Vol.58
特別企画グランドトリオ公演~偉大な芸術家の思い出~

9/8(日)14:00。一般3,000円、学生(小学生以上)・シルバー(60歳以上)2,500円、子ども(4歳以上)1,500円。全席自由。072-778-8788(いたみホール)

9/13(金)~9/22(日)

まちなかに虫の音

伊丹郷町館、ほか



江戸時代から酒造業などで栄えてきた市内の郷町界隈に秋の鳴く虫15種3,000匹を展示する。虫の音と一緒にコンサート、まちあるきなど20以上の関連イベントは要チェック。お店で限定メニューが楽しめる、なんて工夫もあり。

鳴く虫と郷町

9/13(金)~9/22(日)。無料(有料イベントも)。郷町館は会期中夜間開館も(詳細未定)。072-772-5959(伊丹郷町館)

9/13(金)

鳴く虫とバラグアイハープの競演!

伊丹アイフォニックホール



今年の鈴虫音楽堂では、バラグアイのハープといわれる美しい音色の楽器「アルパ」を取り上げます。アルパとギターで、「コンドルは飛んでゆく」をはじめ、「川の流れるように」「星に願いを」など名曲の数々をお届けします。至福の響きをお楽しみに!

貸切! 変身! 鈴虫音楽堂~アルパとギターの響き

9/13(金)19:00(演奏約45分)
入場無料。072-780-2110

プレビュー

※イベントにより、未就学児の入場の制限等がある場合がございます。詳細は各施設にお問い合わせください。

9/14(土)~10/27(日)

知的好奇心を刺激するコレクション

美術館



菅井波(産屋シリーズ)双子彦

所蔵品から、知的好奇心を刺激する2つのテーマで企画するコレクション展。Room1では「○△□(まる、さんかく、しかく)」による様々な表現作品を、Room2では19世紀イギリスの挿絵と絵本の原点を探るユーモア溢れる作品を紹介。

THE COLLECTION 2013

[Room1: ○△□ / Room2: 19世紀イギリスの挿絵と絵本]

9/14(土)~10/27(日)、10:00~18:00(入館は17:30まで)。一般300円、大高生200円、中小生100円。072-772-7447

8/14(水) 応募登録締切

作品募集。めざせ大賞 50万円

工芸センター



2011年大賞
[one day fly]
大庫真理(日本)

毎年恒例の伊丹国際クラフト展。今年は「ジュエリー」をテーマに作品を募集します。応募資格は一切なく、素材も問いません。皆さんの自由な発想の作品をお待ちしています。入賞・入選作品は11/16(土)~12/23(月・祝)に工芸センターで展示されます。

【2013 伊丹国際クラフト展「ジュエリー」作品募集

応募登録締切 8/14(水)。登録料: 一般8,000円、学生4,000円。要項請求その他お問合せは、工芸センター072-772-5557。

11/24(日)

古典バレエの最高傑作・白鳥の湖

いたみホール



8/4(日)
発売開始!

ステパネンコ、マラーホフ、ガリムーリンら世界的スターダンサーを生んだ名門バレエ団が待望の再来日! ロシア・バレエの伝統を今に伝えるモスクワ・クラシック・バレエの優雅で気品に満ち溢れた「白鳥の湖(全3幕4場)」をぜひご堪能下さい。

ロシア国立モスクワ・クラシック・バレエ「白鳥の湖」

11/24(日)15:00。S席6,500円、A席5,000円(全席指定)。
072-778-8788

開催中~9/30(月)

日本のクワガタ、一堂に

伊丹市昆虫館



日本にいるクワガタムシ全48種とほぼ全亜種の、計100種類の標本を展示します。日本のカブトムシ9種類も集めちゃいました! クワガタカブトといっても、姿かたちはとても多彩! 「これってクワガタ?」なクワガタムシの生体展示もあるよ!

フチ展示「日本のクワガタ+カブトムシ」

開催中~9/30(月)。9:30~16:30(入館は16:00まで)。火休(8月は無休)。
大人400円、中高生200円、3歳~小学生100円。072-785-3582

7/15(月・祝)

上質のクラシック音楽を身近に

ラストホール



10年ぶりにマリンバアンサンブルの登場です! 爽快なマリンバの響きと打楽器のリズムをステキなお話とともに楽しみください。演奏: 北野 徹パーカッショングループ、お話: 足立 勝。曲目: 「トルコ行進曲」、「ウイリアム・テル序曲」、「アメリカンパトロール」他。

ITAMI Abend Concert Vol.80 [楽しい打楽器とマリンバアンサンブル]

7/15(月・祝)14:00。一般前売1,600円(当日2,000円)
高校生以下・60歳以上前売1,200円(当日1,500円)。072-781-8877

8/3(土)、4(日)

町家で絵本展~夏休みの1日、親子で遊ぼう!

伊丹郷町館 旧石橋家住宅



手づくり絵本の展示、折り紙、六角形の絵変わり絵本づくり、カルタ取りなどをみんなで楽しく遊びます。赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで江戸の町家でほっこりした一日をお過ごしください。

【町家で絵本展】

8/3(土)、4(日)10:00~17:00。無料。絵本ワークショップ「簡単とびだす絵本」
8/4(日)13:00~16:00。要申込。無料。定員20名(低学年は要保護者同伴)。
問合せ、申込みは郷町館(072-772-5959)まで。

アイテムおすすめのイベント

8/30(金)、31(土)

みらいのおとながみるえんげき

アイホール



【あゆみ】(撮影:青木司)

あいつは小学二十六年生。すべてのきっかけはあの日、あいつに出会ってしまったこと。この学校に誰よりも長くいる、大人の子ども…。2010年に岸田戯曲賞を受賞し、注目を集め続ける柴幸男率いる「ままごと」初の「子どもに観てほしい演劇」です。

あいちトリエンナーレ2013 世界初演・委嘱作品 ままごと「日本の大人」

8/30(金)15:00/19:30、8/31(土)11:00/15:00。一般3,000円(当日500円増)、
中学生~大学生1,000円(前売・当日分)、小学生以下500円(前売・当日分)。072-782-2000

9/7(土)、8(日)

舞台は「ひとり暮らしの部屋」

アイホール



撮影:相模友士郎

振付家・ダンサーの寺田みさこによる6年振りの新作公演。5人の女性ダンサーが、自分/他者など境界を行き来する身体を提示し、具象と抽象が入り交じる空間をつくりだします。映像作家・伊藤高志による独創的な映像とのコラボレーションもみどころ。

寺田みさこ振付作品「アリア」

9/7(土)19:00、9/8(日)13:00/17:00。一般3,000円(当日300円増)、
学生&ユース(25歳以下)2,000円(前売のみ)。072-782-2000

9/7(土)~9/29(日)

活字、文字、言葉など古書籍を素材に表現した作品

工芸センター



文字や活字、言葉など消えゆくものを、出会った古書籍を通じて表現します。本から湧き出るイマジネーションを様々な技法によって繰り広げる田中広幸ならではの世界観をお楽しみください。

田中広幸展

9/7(土)~9/29(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。
無料。072-772-5557